

前人未到の関東大学リーグ3連覇に向けスタートを切った今年の王者駒大。前期は3位という結果に終わってしまった。続いて行われたカンカレでは準決勝で2部明治大に敗退。第3代代表で総理大臣杯へ。

大臣杯も史上初の3連覇のプレッシャーがかかる。しかし王者はプライドを見せ見事目標の3冠のうちの一つを獲得。そんな今年の前半戦を鈴木祐輔主将、小林亮副主将、中後雅喜副主将の3人に振り返ってもらった。

頑張れなかった前期リーグ

鈴木 良くなかったですね。いい内容で終えた試合がなかった。競り合いの試合に弱かったです。開幕戦、国士戦、筑波戦、負けた試合が全て負ける内容で負けたわけではなく、うちの頑張りも足りなかったです。

中後 そういえば、一回も勝ってないよね。でも開幕戦は勝った試合だったよね。3-3に追いついて最低引き分けの試合だったよ。

鈴木 やっぱ勝ちたかったよね。最初に勝てるか勝ってないかで、「勢い」というものが違ってくると思ってたし、駒大に入ってからあまり開幕に勝ってなかったんだ。

中後 そういえば、一回も勝ってないよね。でも開幕戦は勝った試合だったよね。3-3に追いついて最低引き分けの試合だったよ。

鈴木 2節を前にキャプテンの鈴木祐選手が怪我をしチームを離れたわけですが、その時お二人はどうでしたか。

小林 いや別に・・・(笑)。

鈴木 中後、どっちがキャプテンマーク巻くかぐらいだよ(笑)。まあみんな選手間にすごい実力差があるわけじゃないし、誰だつてやることは同じだし、祐輔が抜けても競り合いの部分では大きな痛手でしたけど、その分CBは人がいるし、そこでチームがでてきて頑張ろうってやつも出てきたし、チームに逆にプラスになりましたね。

鈴木 俺が外から見てもまともだった感じがしたよ。

中後 祐輔の為に頑張ったからね。鈴木 いやそんなの思っていないよ(笑)。2節以降は開幕戦で負け何が足りないか、何が大事かっていう事をはっきり話し合えたからよかったね。

鈴木 3-5節と完封勝利を収めましたが失点ゼロというのはどうでしたか。

中後 ゼロっていうのはあまり少ないからね。まあよかったといえばよかったけど、相手のミスに助けられた部分もあったんで、もう少しは自信になったよね。

鈴木 俺は相当プレッシャーあったよ。なかなか勝っている時って、DFはいじくりにくいじゃん。そういう中で東学大戦の時から出たけど、出て負けたんじゃない。相当気合入ってたよ。

鈴木 調子も上向きで迎えた国士大戦、終了10分前の失点で敗戦、首位陥落となってしまいました。

鈴木 うちの特徴がほとんどでなかった試合でした。本来なら国士大戦のような競った試合をモノにするのが駒大なのに、逆に相手にやられてしまったっていう今年のチームを象徴している試合内容で本当に頑張れなかったっていう一言につきる試合で、あの時は本当に情けなかったです。

鈴木 点差は1-0でしたけど、内容的にはそれ以上に酷い試合でサイドを使えなくて、うちの攻撃ができてなくて、ディフェンスも粘り強くしていたのですが、最後の10分で踏みとどまれなく、点を取られた後にやろうとしていたことがやっとなで始め、最初からやらなきゃいけないようになって感じた試合でした。

鈴木 首位ターンには勝つしかない状況で小林亮選手がゴールで先制するも逆転負け。失点も開幕後2失点と安定していましたが、この試合では3失点となりました。

中後 ああ、あのゴールはねーよ(笑)。中盤とか簡単に回されてたし、中盤



が一番悪いわけではないが中盤の守備が疎かになっていて、相手の中盤でボール回すのに自信があるチームで、自由にやらせてみたら、先制できたがすぐに中盤崩れちゃって。国士大戦で反省してそれよりかはよくなったけれど、結果的には同じになってしまったって、ほんとと反省するしかなかったです。

鈴木 前期リーグは3位に終わったわけですが、

鈴木 3位で終わったことはどうしようもないことで、後は結果もそうなんですけれど、首位と勝ち点5離れちゃって、とても苦しい状況なんです。後期はもう1試合も落とせないので、トーナメントと同じような気持ちでいかなければいけないので、まあ厳しいですけど、逆にプラスに考えてこの厳しい状況乗り越えられるチームだからこそ、こういう状況を与えられたと。まあそれくらいポジティブに考えて。

鈴木 中後、めっちゃポジティブじゃあ。3人(笑)。

鈴木 まあそれくらいやれよと！逆に甘えていた分ツケが回ったという感じなんで、そこで壁を乗り越えられるかっていうのが俺らにか

かっているんで、厳しいかもしれないですけど、絶対に優勝を勝ち取りたいです！

中後 競り合いに勝ちたいよね。鈴木 あと一本ついでとこでね。

鈴木 厳しいゲームは絶対あると思うけど、取れないと厳しいからね。去年はそれが取れた。内容は悪くても結果はついてきてて。鈴木 後期はほんと結果だよ。内容もそうだけどほんと結果に執着していかないと。

けど、カンカレで勝っていくことによつてやらなくちゃいけないことがみえてきたのがよかったよ。

カンカレでは1、2回戦を難なく突破し準々決勝では前期リーグ開幕戦で敗戦を喫した流経大との対戦となりました。

小林 同じ相手に負けるほど悔しい事はないし、絶対勝つてやるって思ってたし、それを勝つては大臣杯に行けるっていうのがあったんでモチベーションが高かったです。

中後 ああ、あの時先制されたよね。鈴木 3人、またかよって思ったね(笑)。

中後 前半0-1で終わって開始早々、亮がなんちゃってゴール決めて。小林 様様だよ(笑)。後半は良かったよね。その前半は、いつもスロースターターだからな。

鈴木 出だしがもっと頑張ればどこにも負けないと思うけど、それができないから負けちゃったり。ちよつとの違いですけどそれが試合だと大きくなつちやって...

準決勝では2部の明治大に敗戦。去年と同じく3位決定戦に回ることにになりましたが、試合内容も明治大の気迫が強く感じられた試合で、試合後には秋田監督の激げ飛び試合後に練習という事態になりました。

鈴木 3人、何もできなかったよね。鈴木 いやられたっていうことで、あんまり試合内容は覚えてないもん。

鈴木 ああ、あの試合が一番酷かった。鈴木 相手の気持ちもあつたけど、そこでそれに負けたらね。

中後 いや、でもみんな気持ちが入ってなかったよ。鈴木 流経大戦で大臣杯決めて満足しちゃって。

鈴木 そういふいう気持ちはなくそうと思ってたけどどっかにあつたね。中後 練習はきつかったけど、集中して買の高い練習してたよね。

鈴木 監督も自らセンタリングしてみせたりして、その気持ちもすくく伝わってきたよね。監督のやりた

いことが再確認できた。鈴木 ああ、あの練習をいつもやれたら

前半戦を振り返る